

会 議 録

会議名称	第3回伊達市庁舎整備検討委員会		
議 題	(1) 庁舎整備の考え方について		
開催日時	令和6年5月20日（月）午後4時30分～午後5時20分		
場 所	伊達市役所2階会議室A・B		
出席者	委員：12名（欠席：2名）		
	所管部課名	総務部総務課	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	2人
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
【会議録】			
1 開 会			
事務局より、委員の過半数以上の出席により会議が成立していることを報告。			
2 議 事			
事務局：これまでの経過として、2回の検討委員会を開催し議論を重ね、本庁舎の整備方法は建替えるべきと全委員の考えが一致したことから、中間答申を提出する運びとなり、3月に中間答申書が委員長から市長に提出された。			
本庁舎整備の考え方については、検討委員会からの中間答申の内容を踏まえ、耐震性の不足や施設の老朽化など本庁舎が抱えている課題を解決するためには建替えした方が有利と判断し、整備方法は建替えとする。しかし、物価高騰の影響により建設コストが高額になることが予想されるため、コストを抑える検討（建築面積の縮減、整備手法の検討など）を行っていく。			
一般的には、構想、計画、設計して建物を建設していく流れであるが、先程の説明のとおり物価が高騰しており、庁舎整備の検討を始めた頃と比較しても建設費が跳ね上がっているため、現状では建設時期が見込めない状況である。			
だが、庁舎を建設するには建設場所や必要な機能や規模など検討に時間を要することから、新庁舎建設に向け構想の検討を進めていくこととしたい。			
前回の委員会では、市で基本構想のたたき台を示し、それについて審議いただくことを想定していたが、まずは皆さんの意見を自由に伺いたいと考えている。			
まず、建設場所について、現在の庁舎より海側は津波の浸水予想区域に指定されている。防災拠点となる庁舎は自然災害等が想定されないエリアへの立地が望ましく、また、庁舎建設に必要なまとまった土地の確保が難しいため、現庁舎敷地内での建替えが妥当と考えている。今後、配置計画などの検討が必要になるが、まずは皆さんの意見を伺いたい。			
委員長：現在は人手や資材の不足など道内の建設業界は厳しく、計画を立てても計画通り進まない状況である。だが、じっくり考える時間が与えられたと考え、構想をしっかり組み立てていくいい機会でもあるので、皆さんの意見を伺っていききたい。			
まずは、これまでの経過の部分でご意見のある方いらっしゃいますか。			
委員A：前回の委員会では、庁舎の分散について意見したが、分散することによって防災拠点機能や物資の保管場所を分けることができるし、近くにあった方が市民も利用しやすいのではないと思う。また、大きな建物を建てるより安価に建設できることも考えられるので、検討してほしい。			
委員長：続いて、新庁舎に求められる機能などについてご意見を伺いたい。			

委員 B：使いやすい庁舎というのは必要な事であり、どう市民と結びついていくのか問題である。職員だけが使いやすく、市民に不便を与えては困るので、慎重な検討が必要である。あればいい機能としては、食堂や来客用の喫茶室があれば良い。

他に、現在は各課に直通電話が1本だが、各係に1本あった方が機能的に良くなるのではないかと思う。また、これまではメンテナンスが足りていなかったのも、長寿命化を図るためにも、配管や排水設備は定期的に点検していくべきである。

委員 C：物価高騰の影響がすごいという実感がある。現在の施設で使っていない機能など減らしていけば、予算を軽減できるのではないかと思う。

また、その都度ではなく定期的なメンテナンスが必要である。

委員 D：防災拠点施設として、津波だけでなく、有珠山噴火の影響も考慮して対応できる機能を盛り込むべきである。また、財政負担が大きいことから、稼げる庁舎として食堂やコンビニなどの運営も検討するべきと考える。

利便性については、高齢者と子育ての世代で求められることが全く違うので、上手く一致できればいいと思う。

委員 E：高齢者と子育ての世代のどちらかに使いやすさを合わせるのではなく、全体でいいものにしてもらいたい。また、近隣のお店への配慮は必要だが、昔は市役所に食堂があったことを思い出し、足を向けた時に食堂や喫茶店があったらホッとできる空間になると思う。

財政的な面では、将来的に若い世代の負担にならないようにしてほしい。

委員 F：市役所に来たら伊達がどういう所かわかるような位置づけの場所にしてもらいたい。

また、テナントの活用も検討するべきだと思う。

委員 G：窓口は開かれた場所もいいが、プライバシーの配慮から個別化されたスペースも必要だと考える。また、現在は市民が窓口で職員に声を掛けていると思うが、窓口カウンターに行けば職員が気付けるような配置にしてほしい。

委員 A：入室管理や情報漏洩を防ぐセキュリティ対策は必要である。

最近の庁舎では窓口業務とバックヤード業務を分けるのが主流かと思うが、市民に分かりやすい伊達市に合った窓口の配置にしてほしい。最近では何でも受け付ける「なんでも窓口」が設置されている庁舎もあるので、設置を検討してみるのもいいのではないか。相談スペースは茨城県土浦市役所が良さそうな感じを受けた。

仕切りの設置などプライバシーへの配慮や車椅子対応のカウンターなど障がい者への配慮や外国人にもわかりやすい案内も検討してほしい。

執務空間は、会議室や書庫などを含めて可動式な空間にした方がよい。

また、駐車場などの屋外スペースがイベント等に利用できるといい。

委員 H：意見がたくさん出ているが、その一方でお金がかかることなので費用との天秤にかけて検討を進めてほしい。建替えるのであれば、より多くの市民から意見を聴いて、皆さんが納得のいく形で進めてほしい。

委員 I：新庁舎の防災拠点施設としての目的や役割をはっきりさせて、必要な機能を検討してほしい。

また、市にはたくさんのボランティア組織があり、上手く活用することで市職員の仕事の負担軽減にもなるし、まちづくり活動をされている方々がもっと積極的にまちづくりに関われるのではないかと思う。

委員 J：DXを進めても、スマホの使い方がわからない高齢者が多いので、上手く機能しないのではないか。

また、コンビニがあれば良いと思う。

委員 K：夏場は暑く感じるので、温度管理を行えば働く側も効率良く仕事ができるのではないか。

委員 D：働きやすい庁舎として、市役所で働いている職員の意見が大事だし、これから働き始める高校生など若い人の意見を取り入れることが重要である。

D Xも進めていかないといけないが、高齢化社会に突入していてなかなか進まない面もあるが、みんなが利用しやすいものにしてほしい。

委員長：色んな視点や立場で見るのが大事であり、引き続き意見を出してもらい、議論を進めていきたい。

3 その他

事務局：委員会で最近建設された庁舎の視察を検討している。要望や参加できるかなど改めて照会するので、回答をいただきたい。

4 閉 会

第3回伊達市庁舎整備検討委員会

日時:令和6年5月20日(月)16:30~
場所:伊達市役所本庁舎2階会議室A・B

伊達市総務部総務課

1 これまでの経過

■令和5年11月28日 第1回庁舎整備検討委員会 開催

市長から検討委員会委員長へ諮問書が提出された。
事務局から「本庁舎の現状と課題」「庁舎整備に関する基本的な考え方」についての説明の後、各委員から意見を伺い、全ての委員から老朽化した本庁舎は建替えるべきとの意見が出された。

■令和6年2月2日 第2回庁舎整備検討委員会 開催

前回委員会での意見を踏まえ協議を行った結果、「建替え」とすることで全委員の考えが一致したことから、整備方法に関する中間答申を市長へ提出する運びとなった。

■令和6年3月21日 中間答申書提出

庁舎整備検討委員会委員長から市長へ中間答申書が提出された。



2 本庁舎整備の考え方

庁舎整備検討委員会から提出された中間答申の内容及び現在抱えている課題解決のためには、本庁舎は建替えした方が有利と判断し、整備手法は「建替え」とします。

<本庁舎の建替えを行う主な理由>

- ・旧耐震基準で建築されており、耐震性が不足していること
- ・建物、設備とも老朽化が著しく、維持管理に多くの経費がかかると予想されること
- ・防災拠点として必要な機能が不足していること
- ・執務環境が劣悪で、現庁舎に空調設備を設置しても、環境負荷の低減に寄与できないこと
- ・耐震、設備機器の改修を実施しても、高額な費用がかかる上に改修後の余寿命が不明であること
- ・改修ではいずれ建替えが必要になり、長期的な視点では建替えの方が費用面で有利であること

しかし、物価(人件費、資材等)高騰の影響により、建築コストがかなり高額になると予想されることから、コストを抑える検討を合わせて行っています。

3 これからの進め方について①



現庁舎の状況を把握し、新庁舎の考え方の「骨格」となるものを作ります

建設地を決定し施設規模を設定(間取りは不明)

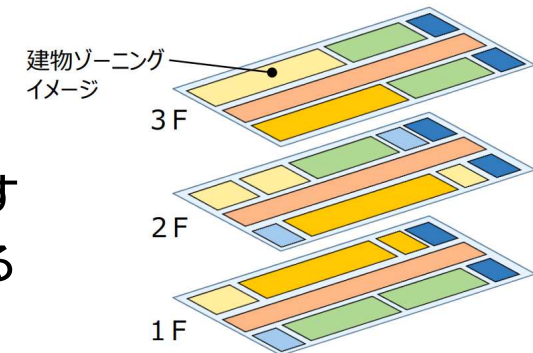
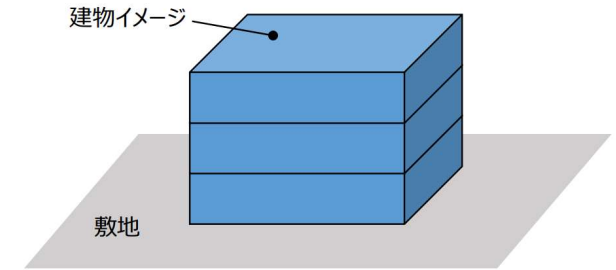
基本構想でまとめた「骨格」に肉付けしていきます

必要諸室の整理と標準的な室の大きさと要望を整理(間取りは仮設定)

具体的な寸法を検討し、設計図の基本となるものを作成します
具体的な間取りやそれに伴う外観の形、外部デザインを決める

詳細な部分まで設計図を作成し、工事に必要な費用を算出します

※実際の整備時期は、社会情勢や市の財政状況等を考慮したうえで、進めていくこととします



3 これからの進め方について②

▼伊達市庁舎建設基本構想 項目(案)

第1章 基本構想策定の趣旨

第2章 現庁舎の現状と課題

第3章 新庁舎建設に向けた基本的な考え方

第4章 新庁舎の機能と規模

4-1 新庁舎に求められる機能

4-2 新庁舎の規模

第5章 新庁舎の建設場所

第6章 新庁舎の事業手法

6-1 事業手法

6-2 事業スケジュール

6-3 概算事業費

6-4 想定する財源



4 建設場所の検討③

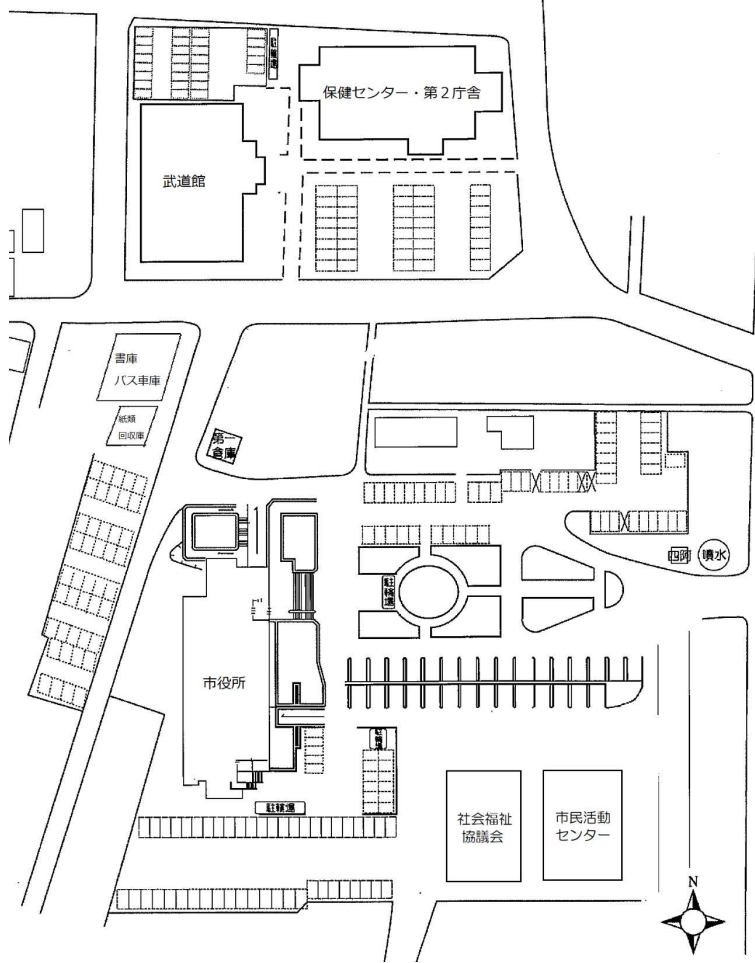
防災拠点となる庁舎は、自然災害等が想定されないエリアへの立地が望ましく、現庁舎より海側は津波の浸水予想区域に指定されているため、移転候補地として理解を得るのが難しい。

また、庁舎の建設に必要なまとまった土地の確保が困難なため、現庁舎の敷地内での建替えが妥当と考えます。

今後、配置計画などの検討が必要です。

■現庁舎の状況

建築場所	伊達市鹿島町20番地1
敷地面積	12,542.300m ²
建築面積	1,621.525m ²
延べ面積	6,160.866m ²



5 庁舎に求められる機能

■使いやすい庁舎

利便性の向上、サービスのオンライン化…

■働きやすい庁舎

DXの推進、フレキシブルな執務空間…

■新庁舎にあったら良い機能・施設

防災拠点施設としての機能、
多目的に使用できる空間…

■その他

環境への配慮、財政負担の軽減…

